

# 川に親しむ

## 「環境保全のためのシートベルト」

「米子地区環境問題を考える企業懇話会」事務局長

むかい てつろう  
向井 哲朗 さん（米子市彦名町）



向井 哲朗さん

**企**業の立場から鳥取県西部地域の環境を考えた取り組みをしていこうと、平成8年に「米子地区環境問題を考える企業懇話会」の設立に奔走し、事務局長として幅広く活躍する向井さん。現在では会員企業数27社、総勢8,765人の大きな組織となり、向井さんが勤務する工場をはじめ、日野川や中海などのそばに立地する企業も多数参加している。

活動内容は、企業と住民、行政、学校など地域が一体となって環境活動を行う「グラウンドワーク活動」が主体。皆生海岸や米子水鳥公園の清掃活動を毎年行うほか、昨年は子供たちが自然とふれ合うようにと彦名地区への「メダカ池」の設置に力を入れている。

向井さんが環境に関心を持ったのは、中学生のころ。生まれ育った彦名地区で、中海が赤潮に染まるのを目の当たりにしたのがきっかけだった。



海岸清掃



メダカ池

**そ**の後、仕事のかたわら地域で地道かつ様々な環境活動を行い、平成2年には地域の小学生による「チビッ子環境パトロール隊」を組織。子供たちに体験型環境学習の実践指導をはじめている。その中で使用済みの割りばしを回収して紙にする運動を発案。これが身近なことから誰でも出来る環境運動ということで、またたく間に全国へと広がっていった。平成11年には『グラウンドワークで環境保全を目指す』の論文で内閣官房長官賞を、同13年には『割りばしリサイクル運動』で環境省より環境大臣賞を受賞。昨年は「秋の園遊会」にも招待されている。

向井さんは「賞よりも川や海がきれいになるほうが大切」と笑いながら、「環境問題はライフワークです」と力強く語る。そして「環境活動は、環境保全のためのシートベルトのようなもの」と説明する。大きなけが（環境破壊）につながらないように誰もが「背伸びをせずにできるから」との例えだ。

そして、私たち地域住民は常に環境に対して加害者意識を持って対処する事を念頭に「暮らしの中で誰でもできる環境対策」として次の事の実践の呼びかけをしている。

家庭生活排水を出さない工夫・努力をする

食べ物は必要な分だけ作り、残さないようにする。

米のとぎ汁や牛乳、ジュース、ビール等飲んだ後のコップの洗いは庭木に還元する。

台所の三角コーナーや流し台の籠には、ろ過袋・廃パンストを取り付ける。

汚れのひどい食器・なべ類は、ぼろ布やちり紙等で拭いてから洗う。

廃てんぷら油はポリタンクに回収して製紙工場の燃料に。

風呂の水は温かいうちに洗濯水として再利用を。

物を大切に。4R「リデュース（減らす）、リフューズ（断る）、リユース（再利用）、リサイクル（再生）」を皆が実践する。

「環境対策は身近なことから」。向井さんの思いは家庭や企業に、そして地域と全国へと確実な広がりを見せている。